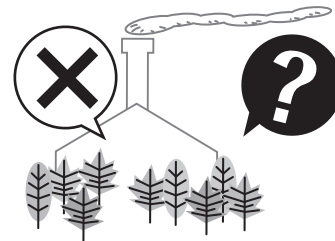


用地選定に住民等の参加が決まっていたのに行政のみで行われた!!

「ごみ処理施設用地選定委員会」(平成 18 年度実施/以下、用地選定委員会)は、ごみ処理施設の建設場所を決める非常に大切な会議です。皆様もご存知の通り“行政関係者のみ”の委員構成で行われ「飯森」を最終候補地と決めました。

しかし、広域議会が決定した計画(H18.2.21 議決)では、住民や学識経験者・議員等が委員となり運営されるものでした。その決定は“すり替えられ”行政のみの委員となったのです。



※議会は、住民の意思を代表し、最終決定を行う機関。最終的な決定権は、市長ではなく議会にある。
※用地選定委員会の委員は、大町市・白馬村・小谷村の助役、担当課長、担当係長、広域連合所長。その他、コンサルタント(報告書や住民説明会資料の作成等)が出席。

この件に関するミニ勉強会を行います ●日時：9月13日(木)19時～21時 ●会場：ふれあいセンター老人いこい室

9月13日(木) 19:00～ ふれあいセンター

提言

選定作業にあたっては……選定過程を含めて公開し、住民の理解を得ながら実施されたい。

「ごみ処理広域化基本計画策定委員会」(H16.7.30～H17.3.11 / 7回開催/住民公募2名、住民団体8名、学識経験者2名、事業者団体2名、行政2名)で、「ごみ処理広域化基本計画」を策定した。その中で、委員長松岡英子先生(信州大学・教授)は用地選定について「選定作業にあたっては透明性が重要であることから、選定過程を含めて公開し、住民の理解を得ながら実施されたい。」との提言書を広域連合長に提出している。

議決

住民公募・学識経験者等が委員となる「用地選定委員会」設置の予算を議会が可決

北アルプス広域連合議会に、公募委員(2名)・関係団体(2名)・学識経験者(2名)・議会関係(大町、白馬、小谷/各1名)・行政(2名)の合計11名で構成する「用地選定委員会」を設置し、委員報酬(行政2名以外の9名)788千円の予算が提出され、本会議(H18.2.21 /平成18年度予算)で可決した。

※上述の提言書に添った形の構成である

無視?

行政側は、行政関係者のみの委員構成とする「用地選定委員会」に、勝手に変更!

未公表の行政のみの会議「ごみ処理広域化打合会議」(H18.5.1)で、議会の決議や「基本計画(提言書)」に反する「用地選定委員会」の設置要綱を作成し、行政のみの委員構成、オープンでない組織とした。また、第8回ごみ処理広域化特別委員会(H18.5.26 /議会)対策も検討。議員が気付かないよう“さも理屈が合っている”ように“ごまかし”“誘導”するシナリオを作成した。そして、実行!議員に気付かれなかった。



用地選定

行政のみで行われ、コンサルタントが作文した!

平成18年5月30日から始まった「用地選定委員会」(~H19.2.15 / 9回開催)。ようやく5回目(H18.11.20)からコンサルタントが登場! 10月20日の「打合会議」で決定したと思われる(※次号説明)「飯森」になるよう資料を作成した。表向きには、今年の2月15日に最終候補地が決まったとなっている。また、議員が知るのは、信毎の報道の日と同じ、2月23日。

支出0円

平成18年度決算報告で「用地選定委員会」の委員報酬0円と報告された

議会無視
住民無視
の
用地選定

住民や学識経験者・議員等が選定に加わっていれば、用地決定まで時間がかかるかもしれないが、ここまで混乱しなかったのでは?

また、いったい何故? 住民参加させないように急に変更したのか? 議会へも変更した理由説明を「ごまかし」てまでも行おうとしたのか? 詳しくは、次号(vol.12、11日発行)で掲載!

住民参加・情報公開で運営

すり替え!

行政のみ・非公開で運営

財政への圧迫… ～借金を重ねるの？

村の総借金は
100億円

現在の白馬・小谷のごみ焼却施設にどれだけの費用が掛かっているかご存知ですか。平成 11～12 年にダイオキシン対策を実施し、その借金を毎年 8 千 7 百万円も返済しているのです。借金返済は平成 22 年度まで続きます。そのほかに施設の運転・維持費及び焼却灰の処理費として毎年 1 億 6 千 8 百万円（平成 17 年度）、借金返済と合わせると毎年 2 億 5 千 5 百万円も掛かっているのです。毎年 1 人当たり約 2 万円、1 世帯当り約 5 万 2 千円も掛かっているのです。

さらに新ごみ処理施設（焼却施設+リサイクルセンター）を建設するとすると、平成 19～22 年度に約 2 億円近くの費用負担が発生し、平成 22 年度からは新たに新ごみ処理施設の借金を抱えることとなります。

また、その建設費は、41 億 2 千万円としていますが、本当でしょうか？基礎工事費や、飯森とするなら「耐震設計・施工費」と姫川・平川による浸水対策費（県のハザードマップでは、浸水する地区として指定。先日の広報はくば 8 月号参照）を加算すれば、50 億-60 億円と膨らんでいきます。

行政は当初予算を小さめに見込んで住民に安心させ、実際にはこれを大幅に超過する例が多々あります。白馬村でも今春完成した保育園は、当初予算は 4 億円でしたが、実際には 5 億 6 千万円も掛かりました。

白馬は
13年
使えるので
その間に

“もったいない”の
考え方を白馬に！

今すぐ新しく作りかえるのは税金の無駄使いです。

まずは、ゴミの分別・資源化で燃やすゴミを減量して（目標を立て）、最低限の施設を考えるべきではないでしょうか。

60t/日 60億円	埼玉県大井町（現：ふじみ野市／当時の人口：4 万 6000 人）では、平成 7 年に 60t/日の焼却炉（広域の計画は 48t）を 60-70 億円で計画。しかし、市民・議員・専門家を含めた新炉建設検討委員会を作り検討を重ねた結果、ゴミの減量化・資源化を進めることとし、1 日 8 時間稼働で 20t を焼却する能力のある炉を、平成 8 年度に 8 億 4460 万円で建設した。 50 億円以上のコストダウン！
20t/日 8億4460万円	

活動資金の
ご協力をお願い致します。

カンパのお願い

八十二銀行 白馬支店
普通口座 137464
名義：ハクバゴミモンスターダイカンパ

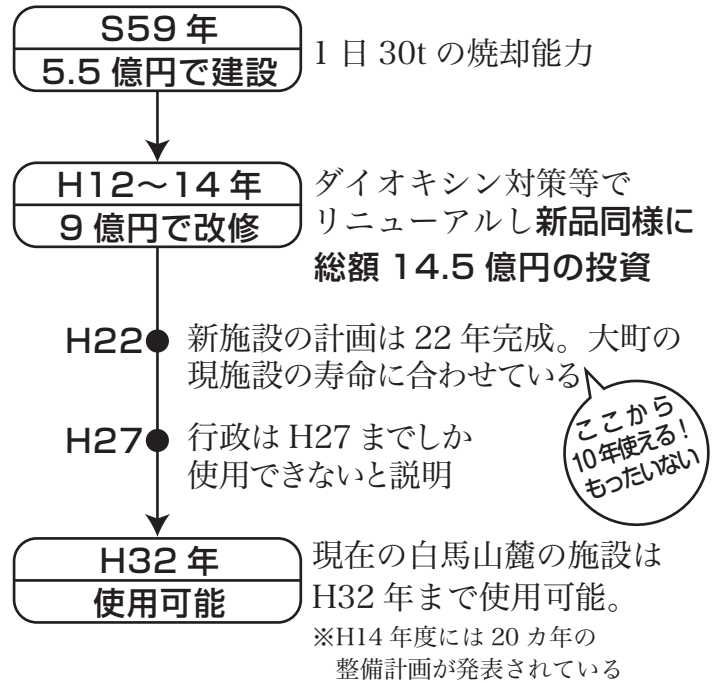
●今までの活動（7/20 以降・前号と内容が一部重複）

- 7/30 「地域懇談会のありようをめぐって-異議申し立て-」（白馬村長宛て。回答は8/6に有）
- 7/30 「説明会実施に関する要望書」（白馬村長宛て。回答は8/6に有）
- 8/01 広域連合のごみ施設説明会に参加（名鉄住民から出された質問書に対する説明会）
- 8/20 「再度の白紙撤回を求める陳情書」「新ごみ処理施設建設計画の説明会に関する陳情書」（北アルプス広域連合議会宛て。審議され継続審議となる）
- 8/20 「新ごみ処理施設建設計画に関する議員懇談会開催の要望書」（北アルプス広域連合議会宛て。審議され了承される。10月末くらい？）
- 8/24 「地区懇談会のありようについて-再び抗議する-」（白馬村長宛て）
- 8/26-27 会報誌 第9号・10号を新聞折込にて連続発行
- 8/28 北アルプス広域議会の傍聴
- 8/30 「新ごみ処理施設建設計画を白紙撤回し、学識経験者、住民代表を含めた“ごみ問題特別委員会”（仮称）の設置を求める陳情書」（白馬村議会宛て）
- 9/05 会報誌 第11号を新聞折込にて発行（村内3300部／今読んでるもの）

●ゴミ関連のイベント&ニュース

- 9/15 13:00～16:30 「村井県政のめざす廃棄物条例の問題点」
場所：松本勤労者福祉センター 主催：県議会「あおぞら」 連絡先：090-9359-3027(北山)
- 9/18 13:30～15:30 「ゴミ減量はじめましょう!」～上田市ごみ減量アドバイザー栗田さんのお話
場所：役場 201-202 会議室 主催：ごみ減量チーム 白馬あーす隊 連絡先：72-4163(石原)

●白馬山麓清掃センター



ここから
10年使える!
もったいない

続行中!

新「ごみ処理施設建設計画」の白紙撤回署名数（8月30日現在）

署名

村外 13151名
村内 約 4123名

※エコーランド地区の署名約200筆(含む)

村内もOK WEB署名を！
www.hakuba-kaeru.com